

各項目の評価指標について

診調組 D-1-2
21.4.10

A. DPCにおいてのみ評価を検討する項目

1. DPCデータを用いて分析が可能であるもの

項目	評価指標の例
① DPC病院として正確なデータを提出していることの評価 (正確なデータ提出のためのコスト、部位不明・詳細不明コードの発生頻度、様式1の非必須項目の入力割合等)	部位不明・詳細不明コード／全DPC対象患者 様式1の非必須項目の入力患者数／非必須項目の入力の必要のある患者数
② 効率化に対する評価 (効率性指数、アウトカム評価と合わせた評価等)	全DPC対象病院の平均在院日数 ／ 当該医療機関の患者構成が、全DPC対象病院と同じと仮定した場合の、平均在院日数
③ 手術症例割合に応じた評価	手術症例数／全DPC対象患者
④ 複雑性指数による評価	当該医療機関の各診断群分類毎の在院日数が、全DPC対象病院と同じと仮定した場合の、平均在院日数 ／ 全病院の平均在院日数
⑤ 診断群分類のカバー率による評価	当該医療機関で、一定数以上の出現した診断群分類の数 ／ 全診断群分類の数
⑥ 高度医療指数(診断群分類点数が一定程度高いものの算定割合)	当該医療機関で、入院期間Ⅰ(又はⅡ)の診断群分類点数が、一定程度より高いものを算定した患者の数 ／ 全DPC対象患者
⑦ 救急・小児救急医療の実施状況及び救急における精神科医療への対応状況による評価	様式1で救急車ありの患者数 ／ 全DPC対象患者 様式1で緊急入院の患者数 ／ 全DPC対象患者 様式1で救急車ありの小児の患者数 ／ 全DPC対象患者 様式1で緊急入院の小児の患者数 ／ 全DPC対象患者 様式1で救急車ありの患者で、入院精神療法が算定されている患者数 ／ 全DPC対象患者 様式1で緊急入院の患者で、入院精神療法が算定されている患者数 ／ 全DPC対象患者
⑧ 患者の年齢構成による評価	一定の年齢以上又は未満の患者数 ／ 全DPC対象患者

2. DPCデータによって一部分析が可能なもの、又は医療機関の負担が少なく速やかにデータを把握することが可能なもの

項目	評価指標の例
① 診療ガイドラインを考慮した診療体制確保の評価	診療ガイドラインを明示して、患者へ治療方針の説明を行っている 診療ガイドラインから逸れた診療を行う場合、十分に検討をするための委員会等が設置されている等の体制が取られていること
② 術後合併症の発生頻度による評価	術後合併症の入力患者数 ／ 全DPC対象患者
③ 医療計画で定める事業等について、地域での実施状況による評価	各4疾病・5事業による入院患者数 ／ 当該地域のDPC病院における、各4疾病・5事業による総入院患者数
⑤ 医師、看護師、薬剤師等の人員配置(チーム医療)による評価	各職種の職員数 ／ 全DPC対象患者 病棟に勤務している各職種の職員数 ／ 全DPC対象患者
⑥ 医療の質に係るデータを公開していることの評価	特定のデータ(医療の質の評価等につながる項目)の公表の実施の有無

3. その他、既存の制度との整合性等を図る必要があるもの

(2) 既に診断群分類の分岐として評価されているもの

項目	評価指標の例
① 標準レジメンによるがん化学療法の割合による評価	標準レジメンによるがん化学療法を実施した患者数 / 全DPC対象患者、又は 全化学療法患者
② 副傷病による評価	副傷病ありの患者数 / 全DPC対象患者
③ 希少性指数による評価(難病や特殊な疾患等への対応状況の評価)	- log(患者調査より求めたDPC傷病名分類毎の総受療患者数割合)

(3) 出来高制度で評価されているもの

項目	評価指標の例
③ 望ましい5基準に係る評価	ア. 人工呼吸等を実施したICU入院患者 / 全DPC対象患者又は全ICU入院患者 イ. 全身麻酔を実施した患者(及び脊椎麻酔を実施した患者) / 全DPC対象患者又は全手術ありの患者 エ. 術中迅速病理組織標本作製の算定割合による評価 / 全DPC対象患者又は全悪性腫瘍で手術ありの患者
ア. ICU入院患者の重症度による評価	
イ. 全身麻酔を実施した患者の割合による評価	
エ. 術中迅速病理組織標本作製の算定割合による評価	